



TITLE:

系統発生分野(Ⅱ 研究所の概要)

AUTHOR(S):

茂原, 信生; 相見, 満; 高井, 正成; 本郷, 一美

CITATION:

茂原, 信生 ...[et al]. 系統発生分野(Ⅱ 研究所の概要). 霊長類研究所年報
2001, 31: 33-36

ISSUE DATE:

2001-10-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/165687>

RIGHT:

- 9) 嶋田誠・早川祥子・杉山幸丸 (2000) 西アフリカ、ボツワナおよびニンバの野生チンパンジー群における生態学的・集団遺伝学的研究 (予報). 第3回サガ・シンポジウム「大型類人猿の研究・飼育・自然保護—現状と未来—」(2000年11月, 犬山).
- 10) 庄武孝義 (2000) マントヒヒの起源について. 日本ナイル, エチオピア学会第9回学術大会 (2000年4月, 京都). 講演要旨集 p. 10
- 11) 山根明弘・庄武孝義・岩本俊孝・森明雄・Boug, A. (2000) サウジアラビアのマントヒヒにおけるユニット内・ユニット間の血縁構造. 日本哺乳類学会 (2000年9月, 大阪). 講演要旨集 p. 58.
- 12) 山根明弘 (2000) サルでもできるマイクロサテライト多型解析. 日本哺乳類学会自由集会「集団遺伝学—はじめの一步, あともう一步—」(2000年9月, 大阪). 講演要旨集 p. 27.
- 13) 山根明弘・庄武孝義・森明雄・Boug, A.・岩本俊孝 (2001) サウジアラビアのマントヒヒにおけるユニット内の血縁構造. 第48回日本生態学会 (2001年3月, 熊本). 講演要旨集 p. 179.

系統発生分野

茂原信生・相見 満・高井正成・本郷一美

<研究概要>

A) 東アジアの化石霊長類の進化に関する研究

茂原信生・高井正成

ミャンマーの中期始新世の地層から産出する真猿類の化石を収集・検討し、真猿類の起源とアジアにおける進化に関しての研究をおこなっている。2000年度はミャンマー連邦中央部のボンダウン地域に広がる中期始新世末期(約3700万年前)の地層で発掘調査をおこない、アンフィピテクス *Amphipithecus* の上顎骨と新種と思われる下顎遊離大臼歯などを発見した。これらは最古の真猿類化石につながる貴重な発見であり、真猿類(高等霊長類)の東アジア起源の可能性を示唆している。

B) インドネシアの霊長類の研究

相見 満

インドネシアの現生および化石霊長類の系統・進化・分類について、詳細な研究を行っている。

C) 南アメリカにおける第三紀の化石霊長類の研究

高井正成・茂原信生

(1) ボリビア国のサジャ地域において後期漸新世(約2500万年前)の地層で発掘調査をおこなっている。*Branisella* は現在知られている最古の広鼻猿類化石であり、その形態は原始的な広鼻猿類の状態を保っている。この形態を他の化石・現生広鼻猿類と比較することにより、広鼻猿類の起源に関する問題について検討している。

(2) コロンビア国のラベンタ地域において、中期中新世(約1500万年前)の地層の発掘調査を継続している。同地域から見つかる複数の化石種と現生種との関連性をもとに、現在の広鼻猿類の形態的な多様性について系統分類学的研究をおこなっている。

D) ゴールデンラングールに関する研究

相見 満

ブータンに分布するゴールデンラングールの分布調査を行った。

E) ニホンザルの時代的な変化、ならびに分布の変遷に関する研究

茂原信生・相見 満・本郷一美・川本 芳¹⁾・毛利俊雄²⁾

古代ニホンザルの形態、分布の時代的な変化を研究している。比較資料として現生のニホンザルの形態調査も併行して行っている。おもに頭蓋骨の形態、歯牙形態の調査を中心に行っている。この研究では形態進化分野との共同研究を、また、古代ニホンザルの DNA に関連した研究では所内の集団遺伝分野との共同研究を、さらには他大学の研究者と共同研究を行っている。

F) 家畜の系統とそれに基づいた日本人の起源に関する研究

茂原信生・本郷一美

形態的特徴から日本の在来家畜（特にイヌとブタ）の系統を探り、さらに人間集団の移動および日本列島への渡来について探る研究を行っている。イヌは人とともに移動するので、イヌを追求することによって人の移動の傍証を得ることが出来る。また、中国、ベトナムのイヌやブタの起源に関する研究を、形態ならびに遺伝子の両面の分析を所外の研究者と共同で行っている。

G) 西アジアにおける家畜の起源に関する研究

本郷一美

西アジアにおける家畜飼育の開始と牧畜の発達過程を解明するため、トルコ東南部のチャヨヌ遺跡（先土器新石器時代）から出土した哺乳動物骨の同定分析を行っている。

<研究業績>

論文

－英文－

- 1) Hongo, H. & Meadow, R.H. (2000) Faunal remains from Prepottery Neolithic levels at Çayönü, southeastern Turkey: a preliminary report focusing on pigs (*Sus* sp.). In: Archaeozoology of the Near East IVA (eds. Buitenhuis, H., Mashkour, M. & Choyke, A.L.). Groningen, ARC-Publications, Groningen, pp. 121-140.
- 2) Ishiguro, N., N. Okumura, A. Matsui & N. Shigehara (2000) Molecular Genetic Analysis of Ancient Japanese Dogs. In: Dogs Through Time: An Archaeological Perspective (ed. S. J. Crockford). BAR International Series 889: 287-292.
- 3) Shigehara, N. & Hongo, H. (2000) Ancient Remains of Jomon Dogs from Neolithic Sites in Japan. Dogs Through Time: An Archaeological Perspective (ed. S.J. Crockford). BAR International Series 889: 61-67.
- 4) Tsubamoto, T., Holroyd, P.A., Takai, M., Shigehara, N., Aung, A.K., Tin Thein, Aung Naing Soe & Soe Thura Tun (2000) Upper premolar dentitions of *Deperetella birmanica* (Mammalia: Perissodactyla: Deperetellidae) from the Eocene Pondaung Formation, Myanmar. Paleontological Research 4 (3) : 183-189.

1) 集団遺伝分野 2) 形態進化分野

- 5) Tsubamoto, T., Egi, N., Takai, M., Shigehara, N., Aung, A.K., Tin Thein, Aung Naing Soe & Soe Thura Tun (2000) A preliminary report on the Eocene mammals of the Pondaung fauna. Myanmar. *Asian Paleoprimatology* 1: 29-101.

－和文－

- 1) 茂原信生・本郷一美 (2000) 鳥浜貝塚 (福井県) 出土の縄文時代前期のイヌとオオカミ. *鳥浜貝塚研究* 2: 23-40.

総説

－和文－

- 1) 茂原信生 (2000) アジア・アフリカにおける真猿類の進化の研究. 日本学術振興会, 学術月報 53 (10): 24-28.

報告・その他

－和文－

- 1) 相見満 (2000) 国際命名規約が改訂された. *霊長類研究* 16: 55-57.
- 2) 櫻井秀雄・茂原信生・芹澤雅夫 (2000) 更埴条里遺跡・屋代遺跡群・窪河原遺跡出土の古代 2・中世・近世の脊椎動物遺存体. 長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 50, 「更埴条里遺跡・屋代遺跡群-古代 2・中世・近世編, 日本道路公団・長野県教育委員会・長野県埋蔵文化財センター. pp. 239-251.
- 3) 茂原信生 (2000) 更埴条里遺跡・屋代遺跡群・窪河原遺跡から出土した古代 2 および中世の人骨. 長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 50, 「更埴条里遺跡・屋代遺跡群-古代 2・中世・近世編, 日本道路公団・長野県教育委員会・長野県埋蔵文化財センター. pp. 220-238
- 4) 茂原信生 (2000) 宮沢中村遺跡 (山梨県) 出土の江戸時代人骨. 「宮沢中村遺跡」一般国道 52 号改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書, 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第 181 集, 山梨県埋蔵文化財センター. pp. 46-53.
- 5) 茂原信生 (2000) 郷土遺跡出土の人骨 (古墳時代) と脊椎動物遺存体 (縄文時代). 上信越自動車道 埋蔵文化財発掘調査報告書 19; --小諸市内-3--, 三子塚遺跡群・三田原遺跡群・岩下遺跡・石上遺跡群・郷土遺跡・東丸山遺跡・西丸山遺跡・深沢遺跡群, 本文編, 日本道路公団・長野県教育委員会・長野県埋蔵文化財センター. pp. 415-419.
- 6) 茂原信生 (2000) 松原遺跡出土の人骨・脊椎動物遺存体 (中世・古代編. 上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 6; ---長野市内 その 4---, 「松原遺跡 古代・中世本文編」; 長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 53, 日本道路公団・長野県教育委員会・長野県埋蔵文化財センター. pp. 375-422.

学会発表・講演

－英文－

- 1) Egi, N., Tsubamoto, T., Takai, M., Shigehara, N., Aye Ko Aung, Aung Naing Soe, Soe Thura Tun, Tin Thein & Maung Maung (2000) Preliminary report on Pondaung mammalian fauna (Eocene; central Myanmar). The 48th Symposium of Vertebrate Palaeontology and Comparative Anatomy (Aug. 2000, Portsmouth, UK).

- 2) Hongo, H., Meadow, R.H., Ilgezdi, G. & Öksüz, B. (2000) Process of ungulate domestication in Prepottery Neolithic Çayönü, southeastern Turkey. The Vth international Conference of Archaeozoology of Southwestern Asia and Adjacent Areas (Apr. 2000, Idril, Jordan). Abstracts p. 15.
- 3) Takai, M., Shigehara, N., Aung, A.K., Soe, A.N., Tun, S.T & Tsubamoto, T. (2000) New primate fossils discovered from the late Middle/Late Eocene of the Pondaung Formation, Central Myanmar. (Apr. 2000, San Antonio, USA). American Journal of Physical Anthropology Suppl. 30: 298.

—和文—

- 1) 相見満 (2000) 霊長類の周日性起源. 第 16 回日本霊長類学会大会 (2000 年 7 月, 名古屋). 霊長類研究 16 (3): 241.
- 2) 本郷一美 (2001) 南東アナトリアの新石器化: 自然収奪から食料生産への緩やかな移行. 国際シンポジウム「東アジア・北太平洋地域の狩猟採集文化研究の新たなパースペクティブ」(2001 年 3 月, 大阪). Abstracts p. 9.
- 3) 本郷一美 (2001) 南東トルコの新石器文化と家畜飼育の開始. 中部人類学談話会第 143 回例会 (2001 年 3 月, 名古屋).
- 4) 南川雅男・松井章・本郷一美 (2000) 安定同位体食性分析法による野生種・家畜種の判別—弥生時代のイノシシ・ブタを例に—. 日本文化財科学会第 17 回大会. (2000 年 7 月, 佐倉市). 日本文化財科学会会報 40: 15.
- 5) 茂原信生 (2000) 古代人の顎・歯に学ぶ口腔機能の大切さ——. 日本人の顎や歯はどのように変化してきたのか. 日本補綴歯科学会第 104 回学術大会 (2000 年 11 月, 大阪市).
- 6) 茂原信生・高井正成・鏑本武久・江木直子・Tin Thein・Soe Thura Tun・Tin Thein・Aung Naing Soe・Maung Maung (2000) はじめて発見された *Amphipithecus* の上顎歯と前頭骨. 第 16 回日本霊長類学会大会 (2000 年 7 月, 名古屋). 霊長類研究 16 (3): 24.
- 7) 高井正成・茂原信生・鏑本武久・江木直子・Aye Ko Aung・Soe Thura Tun・Tin Thein・Aung Naing Soe・Maung Maung (2000) ポンダウン (中期始新世, ミャンマー) の化石霊長類の分類とその系統的位置について. 第 16 回日本霊長類学会大会 (2000 年 7 月, 名古屋). 霊長類研究 16 (3): 241.
- 8) 高井正成・茂原信生・鏑本武久・江木直子・Aye Ko Aung・Soe Thura Tun・Tin Thein・Aung Naing Soe・Maung Maung (2000) ポンダウン化石霊長類 (中期始新世末期, ミャンマー) の系統的位置について. 日本人類学会大会 (2000 年 11 月, 東京). Anthropological Science 109 (1): 94.
- 9) 高井正成・茂原信生・鏑本武久・江木直子・Aye Ko Aung・Soe Thura Tun・Tin Thein・Aung Naing Soe・Maung Maung (2000) ポンダウン層 (中期始新世, ミャンマー) から見つかった化石霊長類の系統的位置について. 日本地質学会第 107 年年会 (2000 年 9 月, 松江). 講演要旨 p. 25.
- 10) 鏑本武久・高井正成・茂原信生・江木直子・Soe Thura Tun・Aye Ko Aung・Aung Naing Soe・Tin Thein (2000) 原始的眞猿類を産出する始新統ポンダウン層 (ミャンマー) の哺乳類化石動物群とその古環境. 日本地質学会第 107 年年会 (2000 年 9 月, 松江). 講演要旨 p. 25.